

日本カトリック正義と平和協議会全国会議 公開講演会「希望は欺かない」

資料

松浦悟郎

1. 江藤直純(日本ルーテル神学校教授)「カトリック教会の新しい宣教の動き」

(季刊『礼拝と音楽』1996年夏号より)

「巨大な船が舵を切って方向を変えつつある。ゆっくりとではあるが、しかし、確実に、大きく変えつつある。しかも、その動きはまさにこの時代と社会が求めているものに応えようとするものとして」

2. 重要な年代

1962年～65年 第二バチカン公会議

1967年 教皇庁正義と平和委員会設立(教皇パウロ6世自発教令により)

1970年 日本司教協議会に正義と平和委員会設立

1974年 正義と平和協議会に改名 武者小路公秀氏が会長

1981年 教皇ヨハネ・パウロ二世訪日「平和アピール」

1987年 NICE(福音宣教推進全国会議)開催 日本の教会としての意識

3. 「公的記憶」で単純化、一色にしない。「ノイズ」を含んだ歴史を

参考)対談 高橋源一郎と朴裕河『帝国の慰安婦』著者

→“悲劇の中にある多様性”を認める、世界を一色にしない。

- * アウグスト・フリードリッヒ・ランドメサ(1936年6月13日の写真)ナチスに抵抗
- * 古山高麗雄(作家)兵となったが二つの決心、「人を殺さない、慰安所に行かない」
- * 原爆被害国として(日本も原爆を開発し、完成したらサイパンに落とす計画)
- * 大川常吉(関東大震災の時、朝鮮人400人を命がけで保護した鶴見署長)

4. 教皇フランシスコ「お告げの祈り」(2023 年)

「神の正義は、過ちを犯した人を罪に定めることを最終目的とするのではなく、その人の救いと再生、その人を義とすることを目的としている。それは愛から、神の御心そのものである深い憐れみといつくしみから来る正義である。御父は、わたしたちが悪に押しつぶされ、罪と弱さに打ちひしがれているのを見て、憐れみをもよおす方である。すなわち、神の正義とは、罰やこらしめをふりまくことではなく、使徒聖パウロが言うように(参照 ローマ 3,22-31)、ご自分の子らを悪のわなから解放し、いやし、再び立ち上がらせ、義とされることにある。」

5. 教皇フランシスコ『希望は欺かない』(2025 年通常聖年大勅書より)

「悪と暴力にはかなわないとなどと思いこむ誘惑に陥らないよう」(7)

→主の祈りの「私たちを誘惑に陥らせず」という意味は、希望を失い、絶望する「誘惑」。